

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホジツン ムツカクケン 学校法人 睦学園								
フリガナ大学の名称	ヒョウダイイカクイカクケン 兵庫大学大学院 (The Graduate school of Hyogo University)								
大学本部の位置	兵庫県加古川市平岡町新在家2301								
大学の目的	<p>本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、建学の精神である「和」を育む仏教主義に基づく大学として、専門の学芸を教授研究するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、併せて有為の人材を養成することを目的とする。</p> <p>本大学院では大学の目的に即し、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>超高齢社会とともに訪れる多死社会において、より一層複雑化、多様化する住民ニーズに対して、住民のQOL並びにQODD(Quality of Dying and Death)の向上を目指し、そのために保健医療・福祉や関連する学際的分野の学問から創生した「看護の知」を活用し看護実践ができる高度看護専門職者、また深い専門的な知識と卓越した実践能力を有し、かつ看護活動を科学的かつ客観的に捉える研究的視点を持ち、「看護の知」を自ら探究し開拓することができる、高度看護専門職者、看護教育者及び看護研究者を育成する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 看護学部 看護学科  第14条特例の実施
	看護学研究科 [Graduate school of Nursing]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	兵庫県加古川市平岡町 新在家2301	
	看護学専攻 [Division of Nursing] (博士前期課程) [Master's Program]	2	6	-	12	修士 (看護学) Master of Science in Nursing	令和2年4月 1年次		
	看護学専攻 [Division of Nursing] (博士後期課程) [Doctoral Program]	3	4	-	12	博士 (看護学) Doctor of Philosophy in Nursing	令和2年4月 1年次		
計		10	-	24					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>現代ビジネス研究科現代ビジネス専攻 (5) (平成31年4月届出)</p> <p>経済情報研究科(廃止) 経済情報研究科経済情報専攻 (△20) ※令和2年4月学生募集停止</p> <p>兵庫大学 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科〔定員減〕 (△20) (令和2年4月) 生涯福祉学部 社会福祉学科〔定員増〕 (10) (令和2年4月)</p>								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程	16科目	9科目	0科目	25科目	32単位			
看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程	7科目	5科目	0科目	12科目	16単位				

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	人	
			教授	准教授	講師	助教	計			助手
新設	看護学研究科 看護学専攻 (博士前期課程)	13 (13)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	12 (12)	博士後期課程の専任教員が博士前期課程を兼務する。	
	看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	4 (4)		
	現代ビジネス研究科 現代ビジネス専攻 (修士課程)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	1 (1)		現代ビジネス研究科 (平成31年4月届出)
	計	21 (21)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	- (-)		
既設	経済情報研究科 経済情報専攻 (修士課程)	- (6)	- (3)	- (0)	- (0)	- (9)	0 (0)	0 (5)	経済情報研究科は令和2年4月学生募集停止	
	計	- (6)	- (3)	- (0)	- (0)	- (9)	- (0)	- (-)		
	合計	21 (21)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	28 (28)	- (0)	- (-)		
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計			大学全体 事務職員は兵庫 大学短期大 学部と兼務	
	事 務 職 員	56 人 (56)		16 (16)		72 人 (72)				
	技 術 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員	1 (1)		0 (0)		1 (1)				
	そ の 他 の 職 員	1 (1)		0 (0)		1 (1)				
計	58 (58)		16 (16)		74 人 (74)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	0 m <sup>2</sup>	72,973 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		72,973 m <sup>2</sup>				
	運 動 場 用 地	0 m <sup>2</sup>	9,600 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		9,600 m <sup>2</sup>				
	小 計	0 m <sup>2</sup>	82,573 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		82,573 m <sup>2</sup>				
	そ の 他	0 m <sup>2</sup>	10,706 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		10,706 m <sup>2</sup>				
合 計	0 m <sup>2</sup>	93,279 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		93,279 m <sup>2</sup>			大学全体 兵庫大学短期大 学部 (必要面積 3200m <sup>2</sup> ) と共用 (収容定員: 440人)		
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計					
	85.57 m <sup>2</sup> ( 85.57 m <sup>2</sup> )	29,200.08 m <sup>2</sup> ( 29,200.08 m <sup>2</sup> )	1,773.35 m <sup>2</sup> ( 1,773.35 m <sup>2</sup> )		31,059 m <sup>2</sup> ( 31,059 m <sup>2</sup> )			大学全体 兵庫大学短期大 学部 (必要面積3100 m <sup>2</sup> ) と共用 (収容定員: 440 人)		
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	29 室	28 室	34 室	4 室 (補助職員 3人)	- 室 (補助職員 - 人)			大学全体 兵庫大学短期大 学部と共用		
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	看護学研究科 看護学専攻			19 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特 定不能なため、 大学全体の数		
	看護学研究科	54,553 [6,889] (54,283 [6,819])	2,014 [256] (1,964 [213])	7 [2] (7 [2])	6,955 (6,955)	6,182 (6,182)	288 (288)			
	計	54,553 [6,889] (54,283 [6,819])	2,014 [256] (1,964 [213])	7 [2] (7 [2])	6,955 (6,955)	6,182 (6,182)	288 (288)			
図 書 館	面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	1,885 m <sup>2</sup>		270		151,194			大学全体		
体 育 館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要							
	2,286 m <sup>2</sup>		テニスコート4面		-					

経費の見積り 及び維持方法の概要	区分	開設前年度						第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での算出不能なため、学部との合計図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。		
		教員1人当り研究費等		/						480千円	480千円	480千円	-千円		-千円	-千円
		共同研究費等		/						3,000千円	3,000千円	3,000千円	-千円		-千円	-千円
		図書購入費		1,000千円	4,400千円	4,400千円	4,400千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
	設備購入費		6,500千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
学生1人当り納付金	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次		学年1人当りの納付金は上段を博士前期課程、下段を博士後期課程とする。			
	750千円		550千円		-千円		-千円		-千円		-千円					
	第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次					
		750千円		550千円		550千円		-千円		-千円		-千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			入学検定料、雑収入等													
既設大学等の状況	大学の名称		兵庫大学大学院										※令和2年度より学生募集停止（経済情報研究科経済情報専攻）			
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地						
	経済情報研究科 経済情報専攻		2	20	-	40	修士（経済情報）	0.05	平成11年度	兵庫県加古川市平岡町新在家2301						
	大学の名称		兵庫大学										※平成28年度より学生募集停止（経済情報学部経済情報学科） ※令和2年度入学定員減（△20人）（現代ビジネス学部現代ビジネス学科） ※平成30年度より編入学定員減（△15人）（健康科学部栄養マネジメント学科） ※平成29年度より学生募集停止（健康科学部看護学科）			
	学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地						
	経済情報学部 経済情報学科		4	-	-	-	学士（経済情報）	-	平成7年度	兵庫県加古川市平岡町新在家2301						
	現代ビジネス学部 現代ビジネス学科		4	120	3年次2	484	学士（現代ビジネス）	0.49	平成28年度							
	健康科学部 栄養マネジメント学科		4	80	3年次5	345	学士（栄養学）	0.64	平成13年度							
	健康システム学科		4	40	-	160	学士（健康科学）	0.94	平成13年度							
	看護学部 看護学科		4	-	-	-	学士（看護学）	-	平成18年度							
看護学部 看護学科		4	90	-	270	学士（看護学）	1.14	平成29年度								
生涯福祉学部 社会福祉学科		4	30	-	120	学士（社会福祉学）	0.89	平成20年度								
こども福祉学科		4	50	3年次5	210	学士（こども福祉）	0.90	平成25年度								
大学の名称		兵庫大学短期大学部														
学部等の名称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地							
保育科第一部		2	100	-	200	短期大学士（保育）	0.90	昭和32年度	兵庫県加古川市平岡町新在家2301番地							
保育科第三部		3	80	-	240	短期大学士（保育）	1.06	昭和46年度								
附属施設の概要		該当なし														

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																
(看護学研究科看護学専攻 博士前期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	看護学研究方法特論	1前	2			○			3						オムニバス	
	疫学・統計学特論	1前	2			○			1							
	看護倫理学特論	1前		2		○			2						オムニバス	
	看護理論特論	1前		2		○			1						兼1 オムニバス	
	看護教育学特論	1後		2		○			1	1	1				オムニバス	
	臨床死生学特論	1後	2			○			1						兼2 オムニバス	
	エンドオブライフケア特論	1後		2		○			2						兼2 オムニバス	
	保健医療福祉学特論	1後		2		○			1						兼3 オムニバス	
	小計（8科目）		—	6	10	0		—	8	1	1	0	0	0	兼7	
専門科目	基盤看護学	看護教育管理学特論	1前		2		○		1	1	1				兼1 オムニバス	
		看護教育管理学特論演習	1後		2			○	1	1	1				兼1 オムニバス	
		長寿科学看護特論	1前		2		○		2						兼1 オムニバス	
		長寿科学看護特論演習	1後		2			○	2						兼1 オムニバス	
		小計（4科目）	—	0	8	0		—	3	1	1	0	0	0	兼2	
	ラエ看護学クエア	エンドオブライフケア看護学特論	1前		2		○		2							オムニバス
		エンドオブライフケア看護学特論演習	1後		2			○	2							オムニバス
		小計（2科目）	—	0	4	0		—	2	0	0	0	0	0	兼0	
	生涯発達看護学	成人・老年看護学特論	1前		2		○		1	1						兼1 オムニバス
		成人・老年看護学特論演習	1後		2			○	1	1						兼1 オムニバス
		母性・小児看護学特論	1前		2		○		2							オムニバス
		母性・小児看護学特論演習	1後		2			○	2							オムニバス
		小計（4科目）	—	0	8	0		—	3	1	0	0	0	0	兼1	
	広域看護学	精神看護学特論	1前		2		○		2							オムニバス
		精神看護学特論演習	1後		2			○	2							オムニバス
		在宅看護学特論	1前		2		○		1	1						兼1 オムニバス
		在宅看護学特論演習	1後		2			○	1	1						オムニバス
		地域看護学特論	1前		2		○		1							兼1 オムニバス
		地域看護学特論演習	1後		2			○	1							兼1 オムニバス
		小計（6科目）	—	0	12	0		—	4	1	0	0	0	0	兼3	
研究目録	特別研究M	1・2通	8				○	13	3							
	小計（1科目）	—	8	0	0		—	13	3	0	0	0	0	0		
合計（25科目）			—	14	42	0	—	13	3	1	0	0	0	兼12		
学位又は称号			修士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）							
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
（修了要件） 本研究科に2年以上在籍し、所定の単位（32単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験（口頭試問）に合格しなければならない。 （履修方法） (1) 共通科目から、必修6単位を履修する。 (2) 専門科目のうち、自身が専攻する特論（2単位）、特論演習（2単位）を履修する。 (3) 共通科目、専門科目のうち、自身が専攻する特論、特論演習以外の科目から14単位以上を履修する。 (4) 特別研究M（8単位）を履修する。								1学年の学期区分		2期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						
（注）																
1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。																
2 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。																
3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。																
4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。																

教育課程等の概要															
(看護学研究科看護学専攻 博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究方法特別講義	1前	2			○			3					オムニバス	
	応用統計学特別講義	1後	2			○			1						
	保健医療福祉政策特別講義	1後		2		○			1					兼3 オムニバス	
	小計(3科目)	—	4	2	0	—	—	—	4	0	0	0	0	兼3	
専門科目	エンドオブライフケア看護学	特別講義	1前		2		○			2					オムニバス
		特別講義演習	1通		2			○		2					オムニバス
		小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	2	0	0	0	0	
	生涯発達看護学	生涯発達看護学特別講義	1前		2		○			3					オムニバス
		生涯発達看護学特別講義演習	1通		2			○		3					オムニバス
		小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	3	0	0	0	0	
	広域看護学	在宅看護学特別講義	1前		2		○			2					オムニバス
		在宅看護学特別講義演習	1通		2			○		2					オムニバス
		地域看護学特別講義	1前		2		○			3					兼1 オムニバス
		地域看護学特別講義演習	1通		2			○		3					オムニバス
		小計(4科目)	—	0	8	0	—	—	—	5	0	0	0	0	兼1
	科目研究	特別研究D	1・2・3通	8				○		13					
小計(1科目)		—	8	0	0	—	—	—	13	0	0	0	0		
合計(12科目)		—	12	18	0	—	—	—	13	0	0	0	0	兼4	
学位又は称号			博士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)						
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
(修了要件) 本研究科に3年以上在籍し、所定の単位(16単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験(口頭試問)に合格しなければならない。  (履修方法) (1) 共通科目から、必修4単位を履修する。 (2) 専門科目のうち、自身が専攻する特別講義(2単位)、特別講義演習(2単位)を履修する。 (3) 特別研究D(8単位)を履修する。								1学年の学期区分		2期					
								1学期の授業期間		15週					
								1時限の授業時間		90分					

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学研究科看護学専攻 博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護学研究方法特論	<p>（概要）高度看護専門職者あるいは管理者・教育者として、看護の質を向上させるための研究を遂行できる知識を深化させる。看護研究の特殊性、倫理性及び看護研究の歴史的発展を理解し、研究方法を学ぶとともに、文献クリティークを通して、自らの研究を実施するための研究方法を修得する。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（① 三徳和子／5回） 看護の質を向上させるために必要な手法や倫理など、研究を遂行できる能力を獲得する。研究の一連の過程の概要を学修し、高度看護専門職者として、必要な基礎的能力を修得する。</p> <p>（6 長弘千恵／6回） 理論を開発していく過程である質的研究の手法と論文の評価法を修得し、自己の研究課題を科学的見地から探求する。</p> <p>（8 柴山健三／4回） 集団を対象とする量的研究の手法と論文の評価法を学ぶことで、自己の研究課題を科学的見地から探求する。</p>	オムニバス方式
	疫学・統計学特論	<p>地域、職域、学校、臨床などの場において、集団の健康状態とその背景因子の把握・分析、介入（治療）効果の評価に不可欠な「疫学」「統計学」に関して、基本的な考え方と手法を学修する。疫学では疫学研究方法の基礎および実践の際の問題点とその克服について考察する。各々の疫学的研究手法を検討するため文献をクリティークし、研究計画を立案する。統計学では基本的な統計解析の手法および関連指標について学修する。</p>	
	看護倫理学特論	<p>（概要）臨床における救急救命医療、集中治療、がん看護などで起こる倫理的問題を理解し、実践現場での医療における倫理に関する知識を深める。看護研究における倫理では、科学研究の自由への保証と規制、倫理原則、不正行為、利益相反、対象者への権利保護、データ保存、管理を理解し、自らの研究を実施するための看護倫理を修得する。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（2 窪寺俊之／5回） 科学研究の自由への保証と規制、倫理原則、不正行為、利益相反、対象者への権利保護、データ保存、管理について教授する。</p> <p>（8 柴山健三／10回） 看護の倫理原則、医療における倫理、救急患者・集中治療患者・がん終末期患者における倫理的問題等の看護学領域における倫理について教授する。</p>	オムニバス方式
	看護理論特論	<p>（概要）看護実践や研究の基盤となる看護理論や看護モデルを理解した上で、看護大理論や中小範囲理論の構造と特徴に関する知識を深め、科学的なアプローチにより開発された諸理論を活用し、自らの実践・研究・教育に応用できる能力を修得する。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（② 小笠原知枝／11回） 看護理論の定義と意義、看護理論開発の過程、看護理論の変遷、看護大理論の特徴（発達論、セルフケア理論、適応モデルなどの構造と特徴）、看護の対象者を理解するための中範囲理論（ストレス・コーピング理論、ソーシャルサポートシステム論、危機理論などの構造と特徴）、看護介入（症状マネジメントモデル）の特徴について教授する。</p> <p>（30 伊東美佐江／4回） 看護理論の分析の視点と評価基準、看護論の構造と特徴（保健信念モデル）、看護過程や看護診断に関する理論、EBNの検索方法について教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学研究科看護学専攻 博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護教育学特論	<p>（概要）看護学の実践と教育における教育的機能を、看護者としての倫理的態度をもって効果的に果たすために、教育心理学・教育学の知識を基盤とした教育的能力と教育に携わるものとしての資質を養う。学習過程における学習理論、教育指導の方法論、教育評価、臨地実習指導方法、カウンセリング技法、クライアント及び家族に対する教育介入計画の立案から評価に至るプロセスについて教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（14 宮島多映子／9回） 看護教育の現状と課題を踏まえ、学習過程における基礎知識と学習理論、教育指導の方法論、教育評価について教授する。</p> <p>（17 大植由佳／4回） 臨地実習指導方法、対人関係を支えるカウンセリング技法などについて教授する。</p> <p>（19 大植崇／2回） クライアント及び家族に対する教育介入計画の立案から評価に至るプロセスについて教授する。</p>	オムニバス方式
	臨床死生学特論	<p>（概要）急速に変化する現代社会の人々の死生観は、身体的・精神的・社会的および霊的な問題が複雑に重なり多様化している。人々の死生観とその背景を理解し、これらの課題について柔軟に対応した看護を推進するために、地域や国、文化などを背景とした文化人類学、宗教学などの人間存在に対する深い学知を修得し、死生観を理論的・思想的に考究する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（2 窪寺俊之／8回） 病院死、高齢者施設の死、過剰医療と生命の質（QOL、QODD）を理解し、身体的生命、精神的生命、社会的生命の捉え方や、死に対する自己決定権などについて考察教授する。</p> <p>（23 本多 彩／5回） 宗教学的視点から東洋、欧米の臨死学とその比較について、人間理解と死生観を理論的、思想的に考察する。</p> <p>（29 比嘉勇人／2回） 諸外国及び我が国の臨死の状況と課題について考察する。</p>	オムニバス方式
	エンドオブライフケア特論	<p>（概要）エンドオブライフケアの基礎的概念や諸理論を理解し、わが国のエンドオブライフケアの現状と課題について認識したうえで、その課題に対処するために、理論と実践を融合した科学的なアプローチを高めることを目的とする。（本科目は、本課程の全ての領域を専攻する者を対象とする。）</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（② 小笠原知枝／7回） わが国の終末期医療やエンドオブライフケアの現状と課題、エンドオブライフとエンドオブライフケアの意味、Death &amp; Dying に関するエビデンスと理論について教授する。</p> <p>（③ 兒玉 拓／2回） エンドオブライフの病態的特徴、生命倫理とエンドオブライフケアについて教授する。</p> <p>（29 比嘉勇人／3回） スピリチュアルケア・スピリチュアルペインの定義を踏まえ、理論と実践を融合した科学的なアプローチを高める方法を教授する。</p> <p>（31 吉岡さおり／3回） エンドオブライフケア理論と看護介入（意思決定支援モデル、dying care、看取り、グリーフとグリーフケア）について教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	保健医療福祉学特論	<p>(概要) 保健医療福祉政策の歴史的背景及び財政医療供給体制の課題を踏まえ、諸外国と我が国の保健医療福祉政策の実情、保健医療福祉関係者と連携して課題解決に向けた取組みをする必要性を理解し、地域包括ケアシステムの構築方法、今後のケアサービスの展望について教授する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1) 三徳和子/6回) 医療供給体制、地域包括支援センター(子育て世代・高齢者)の現状と課題を踏まえ、保健医療福祉関係者の連携について教授する。</p> <p>(20) 高野敦子/1回) 地域包括支援センターとネットワーク(ICT)の在り方について教授する。</p> <p>(21) 河野真/3回) 諸外国と我が国の保健医療福祉政策の実情を理解し、エンドオブライフ期における保健医療福祉関係者のより質の高い連携のあり方について教授する。</p> <p>(22) 伊藤秀樹/5回) 保健医療福祉政策の歴史を踏まえ、現在の保健医療福祉政策の仕組みと財政医療供給体制の課題、地域包括ケアシステムの構築の現状について教授する。</p>	オムニバス方式
専門科目	基盤看護学	看護教育管理学特論	オムニバス方式
		<p>(概要) 看護ケアの質向上のための看護教育と看護管理のあり方を探求する。看護教育については、看護職における基礎教育、継続教育の現状と課題について理解を深め、看護職に対する教育のあり方を考察する。看護職への教育的働きかけ、教育環境づくりなど、効果的な教育を実施していくための知識や理論について学修する。看護管理については、看護を取り巻く保健医療福祉の現状を理解し、多職種との連携を含めた、看護管理者としてより質の高い看護を提供するための方策を探求する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(14) 宮島多映子/5回) 看護の基礎教育、継続教育の現状と課題について理解を深め、看護職に対する教育のあり方を考察する。</p> <p>(17) 大植由佳/4回) 看護職への教育的働きかけ、教育環境づくりなどの効果的な教育を実施していくための知識や理論について学修する。</p> <p>(19) 大植 崇/4回) 看護の社会人教育において、バーンアウトのための行動分析的アプローチと、予防教育の方法、評価、教育指導技術について教授する。</p> <p>(24) 中森えり/2回) 看護管理に求められるマネジメントとリーダーシップ、チームマネジメント、組織変革、人的資源管理、モチベーション理論について教授する。</p>	



授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基盤看護学	看護教育管理学特論演習	<p>(概要) 看護ケアの質の向上のための看護教育と看護管理について、実施した教育の評価と改善のためのあり方を演習により探求する。看護教育では、看護職における基礎教育、継続教育の評価方法の現状と課題について理解を深め、教育のあり方を考究する。看護管理では、保健医療福祉の現状や課題を考察し、多職種と連携した質の高い看護に向けた研究課題を焦点化し、方法論や組織の課題解決に向けた方法を探求する。 (オムニバス方式/全30回)</p> <p>(14 宮島多映子/10回) 看護の基礎教育、継続教育の事例から、現状と課題について議論し、看護職への教育について、具体的な評価のあり方を探求する。</p> <p>(17 大植由佳/8回) 看護職への教育的支援・教育環境の整備について、具体的な進め方についての方法を議論し、探求する。</p> <p>(19 大植 崇/8回) 看護職に対するストレス予防のための行動療法と、バーンアウトの対応についての働きかけの進め方について事例を用いて探求する。</p> <p>(24 中森えり/4回) 病院・施設での看護管理の実際について事例から学修する。</p>	オムニバス方式
	長寿科学看護特論	<p>(概要) 生理学的視点と整形外科的観点から、高齢者の特徴を理解した上で科学的に分析し、心身の健康の維持増進による健康寿命を延伸する支援方法を検討する。長寿社会のあるべき姿を多角的に捉え、対象者が長寿を全うするための方策を考究する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 長尾憲樹/4回) 高齢者の健康体力、高齢者の筋力強化と有酸素運動能力、長寿のための体力の在り方について教授する。</p> <p>(5 長尾光城/9回) 高齢者の生理学的変化及び生理学的変化から起こる病態、ロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニアについて教授する。</p> <p>(20 高野敦子/2回) 高齢者を支えるIoTにおける現状と課題について教授する。</p>	オムニバス方式
	長寿科学看護特論演習	<p>(概要) 生理学的視点と整形外科的観点から、高齢者の特徴を科学的に検証し、心身の健康の維持増進による健康寿命を延伸する方策を検討する。加えて、飛躍的な開発が行われている高齢者を支えるIoTの現状と課題を理解し、長寿社会のあるべき姿を多角的に捉え、健康寿命の延伸とその人なりの「QOL」「QODD」のあり方の探求を、発表と意見交換により深めていく。 (オムニバス方式/全30回)</p> <p>(4 長尾憲樹/13回) 高齢者の身体的特徴を踏まえた健康体力、筋力強化と有酸素運動能力を向上するための健康教育などを看護へ活用する方法について教授する。</p> <p>(5 長尾光城/13回) 健康長寿の延伸を整形外科的観点から検討し、研究課題の焦点化と方法論の検討について教授する。</p> <p>(20 高野敦子/4回) 高齢者を支えるIoT(健康医療クラウド、介護ロボット等)を活用した、生活の質向上のための看護への活用について教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学研究科看護学専攻 博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	エンドオブライフケア看護学特論	<p>（概要）エンドオブライフケア看護学の基礎的概念や諸理論を理解したうえで、我が国のエンドオブライフケアの現状について各事例研究を用いて、患者と家族の抱える課題をアセスメントし、より良いエンドオブライフケアの在り方について考究する。（本科目は、主として、エンドオブライフ看護学領域を専攻する者に教授する。） （オムニバス方式／全15回）</p> <p>② 小笠原知枝／8回 我が国の終末期医療やエンドオブライフケアの現状と課題、エンドオブライフ患者と家族のTotal painに対するアセスメント、エンドオブライフケアにおけるアセスメントと評価の尺度、ACPの事例分析について教授する。</p> <p>③ 兒玉 拓／7回 エンドオブライフの病の軌跡4パターンにおける病態的特徴、エンドオブライフケアの事例分析、エンドオブライフケアにおける臨床倫理について教授する。</p>	オムニバス方式
	エンドオブライフケア看護学特論演習	<p>（概要）エンドオブライフケア看護学の基礎的概念や諸理論を理解したうえで、我が国のエンドオブライフケアの現状と課題を認識し、患者と家族の抱える課題に対処するため、各事例を踏まえながら、発表と意見交換により、エンドオブライフケアの在り方について考究する。 （オムニバス方式／全30回）</p> <p>② 小笠原知枝／18回 個人の発達課題やファミリーサイクルの変化に伴うエンドオブライフの身体的・心理社会的特徴とケア上の課題、エンドオブライフのアセスメントとケア評価のための測定尺度、意思決定能力のアセスメントと意志決定支援コミュニケーション、看取りケアにおける課題と対策、具体的な看護過程におけるエンドオブライフケアの課題とその対策について教授する。</p> <p>③ 兒玉 拓／12回 臨死期の心肺蘇生とDNAR、病態別のエンドオブライフケアについてQOL/QODDの観点から考察する。</p>	オムニバス方式
生涯発達看護学	成人・老年看護学特論	<p>（概要）急性期から回復期・慢性期および終末期の成人・老年期の対象者に対してより質の高い看護を実践するための看護の諸理論、クリティカル状況下にある終末期を含めた看護への援助の在り方を理解し、治療環境、生体侵襲における看護実践の評価、予期的対応や危機的介入の援助法について教授する。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>⑧ 柴山健三／9回 クリティカルケアの概念と歴史的背景、クリティカルケアの研究動向、退院後の在宅療養者のQOL評価、終末期を迎えた患者への看護について教授する。</p> <p>⑩ 白神佐知子／4回 成人及び高齢患者の危機の概念と危機介入への看護について事例分析を行うとともに、高齢者の術前・術後の管理と看護について教授する。</p> <p>⑫ 三好陽子／2回 脳血管疾患により運動障害のある高齢者への看護、認知障害のある高齢者への看護について教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士前期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	生涯発達看護学	成人・老年看護学特論演習 (概要) 急性期から回復期・慢性期および終末期の成人・老年期の患者とその家族の身体的および精神的苦痛を分析・評価し、専門的な判断ができる知識・技術および看護援助法を修得し、臨床現場における生活習慣やQOL改善への援助に関するアドバンストフィジカルアセスメントの実践能力を向上するための研究課題を探究する。 (オムニバス方式/全30回)  (8 柴山健三/20回) クリティカルな状態にある患者への身体的・精神的アセスメント、感染や褥瘡、生活習慣やQOL改善への援助に関する文献クリティークを行う。  (16 白神佐知子/6回) クリティカルな状態にある患者への感染や褥瘡などの合併症を予防する看護介入法について文献クリティークを行う。  (25 三好陽子/4回) 脳血管障害や認知障害のある高齢患者への看護援助に関する文献クリティークを行う。	オムニバス方式
	母性・小児看護学特論	母性・小児看護学特論 (概要) 女性のライフサイクルおよびプロダクティブ・ヘルスにおける健康の捉え方について理解し、母性看護学の質向上に必要な理論、援助方法について探求する。小児医療・保健・福祉・教育領域における子どもとその家族のQOL向上のための地域生活支援の方策について探求する。 (オムニバス方式/全15回)  (7 富安俊子/8回) 女性のライフサイクルにおける特徴及び健康課題について理解し、発達期における健康の保持・増進を促すための看護職の役割について教授する。  (11 森田恵子/7回) 小児看護学の基盤となる諸理論を理解し、病気や障害のある子どもとその家族を生涯発達の視点から捉え、地域生活における現状と課題について教授する。	オムニバス方式
	母性・小児看護学特論演習	母性・小児看護学特論演習 (概要) 育成期にある人々、妊産褥婦と新生児及び家族、こどもとその家族について理解し、それぞれの立場と対象者に適した看護を実践するための能力をプレゼンテーション、ディスカッションにより理解を深め、自らの研究課題を焦点化する。 (オムニバス方式/全30回)  (7 富安俊子/16回) 母性看護学に必要な諸理論(妊娠期の適応理論、愛着理論、親役割理論、発達危機理論など)を踏まえたチームアプローチ、妊産褥婦及び新生児のフィジカルアセスメントについて事例研究を用いて教授する。  (11 森田恵子/14回) 小児看護学に必要な諸理論を踏まえ、子どもとその家族のおかれている地域生活の現状と課題を分析し、QOLの向上に視点をのいた援助方法を探究する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学研究科看護学専攻 博士前期課程）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	広 域 看 護 学	精神看護学特論	<p>（概要）精神看護学の目的と概要について理解し、精神障がい者と家族支援に関する理論やモデルを活用し、アセスメントする能力を養う。精神障がい者を生活の視点から捉え、スピリチュアルケアとスピリチュアルカウンセリング、チーム医療における多職種連携、退院調整・退院支援におけるシームレスケア、地域包括ケアシステムについて探求する。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（2 窪寺俊之／5回） エンドオブライフ期の本人・家族について、キリスト教哲学の視座から、スピリチュアルケアの定義や本質について教授する。</p> <p>（9 加藤知可子／10回） 精神看護学の基盤となる理論と概念を踏まえ、統合失調症患者の入院時のケアや退院時に必要となる社会資源の活用、多職種との連携を通して、本人及び家族への支援について教授する。</p>	オムニバス方式
		精神看護学特論演習	<p>（概要）地域の精神障がい者とその家族の抱える課題に焦点をあて、ケアの質向上に向けた支援方法を探究する。ホスピス・緩和医療とスピリチュアルケアについて、病院で実践を展開する聖職者の立場から多角的に理解し、事例研究を用いエンドオブライフ期におけるカウンセリング法を用いた看護的アプローチを探究する。 （オムニバス方式／全30回）</p> <p>（2 窪寺俊之／10回） エンドオブライフ期におけるホスピス・緩和医療とスピリチュアルケアについて、事例研究を基に教授する。</p> <p>（9 加藤知可子／20回） 精神看護学領域における患者と家族のQOLの向上を目指して、退院支援及び地域での日常生活支援に関する看護実践とシステムの実践について、事例研究を用いて教授する。</p>	オムニバス方式
		在宅看護学特論	<p>（概要）さまざまな健康課題を持つ人の在宅看護を可能にするために必要な諸理論やモデルを活用し、在宅終末期医療や在宅看護の質が高まる効果的なケア、関係機関や多職種との連携、ケアシステムの構築など看護職の役割と機能について教授する。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（6 長弘千恵／7回） 在宅看護の質を向上させるための基盤となる理論や社会的資源の活用、包括的ケアの構築を推進するための看護職の役割について教授する。</p> <p>（④ 高見千恵／6回） 在宅看護の実践に活用できる諸制度、社会資源の活用方法、ケアシステムの構築など、事例研究をもとに、療養者とその家族に対する支援方法を教授する。</p> <p>（26 西村正二／2回） 在宅医療の推進のために医師の立場から、QOL、QODDを踏まえた地域での看取りの現状と課題について教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
（看護学研究科看護学専攻 博士前期課程）				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	広 域 看 護 学	在宅看護学特論演習	<p>（概要）在宅看護学領域における看護実践者あるいは管理者・教育者として、看護の質を向上させるために文献クリティックを行い、科学的なアプローチによる援助方法を考究する。高度化する在宅医療の中で、在宅療養者と家族の持つ課題を抽出し、生活を重視したケアの質向上のための研究課題を考究する。 （オムニバス方式／全30回）</p> <p>（6 長弘千恵／16回） 在宅看護学領域における看護の質を向上させるために、文献クリティックを行い、科学的根拠となる研究手法を修得する。特に在宅看護の対象者全般とその家族に対する支援方法について探求する。</p> <p>（④ 高見千恵／14回） 要介護高齢者および家族への支援、関係機関と多職種とのネットワーク形成、ケアシステム構築における現状と課題を分析し、より質の高い支援方法を探求する。</p>	オムニバス方式
		地域看護学特論	<p>（概要）地域で生活する人々がその人らしくあり続けるために必要な諸理論、施策を理解し、質の高いQOLおよびQODDへの支援、地域看護活動における関係機関・多職種との連携によるネットワーク形成、ソーシャルキャピタルの醸成によるケアシステムの必要性と地域における看護職の役割について考究する。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（① 三徳和子／13回） 諸外国及び我が国の地域看護学の変遷、子育て世代包括支援システムと支援センターの児童虐待に対する活動、地域における看取り文化やソーシャルキャピタルの在り方について教授する。</p> <p>（27 眞崎直子／2回） 障害者包括支援システムと支援センターの統合失調症患者への活動について教授する。</p>	オムニバス方式
		地域看護学特論演習	<p>（概要）地域看護学特論で学んだことを基礎にして、地域で生活する個人及び家族、集団などを対象として、多様な人々の健康上の課題やライフサイクル毎のニーズを理解した上で、その課題を探究し、多職種・多機関とのネットワーク形成による地域づくり、まちづくりを目指した包括ケアシステムの構築方法を探究する。 （オムニバス方式／全30回）</p> <p>（① 三徳和子／28回） 地域看護学の役割、住民と専門職のチームワークによる健康支援、子育て世代包括支援センターの現状と課題（子育て支援、子どもの貧困、児童虐待）、ソーシャルキャピタルの形成と地域づくり・まちづくりについて探求する。</p> <p>（28 阿曾沼克弘／2回） 身体障害者支援センター、高齢者包括支援センターの役割と看取りのケアについて探求する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学研究科看護学専攻 博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	特別研究M	<p>（概要）質の高い看護実践の観点から、看護学の発展と革新および精緻な看護に資することができる研究成果を究明する。学生がそれぞれの専門領域において関心のある研究テーマに基づき、研究課題を焦点化、研究方法論の決定、研究計画書、論文作成を行う過程を通し、研究者として必要な能力を修得する。</p> <p>（① 三徳和子） 地域に在住する人々のゆりかごから墓場までのライフサイクル別健康課題およびエンドオブライフ期における対象者（要介護・支援高齢者、認知機能障害高齢者、難病患者等）のQOLおよびQODDに関する研究、生活習慣病、職場のストレスなどの研究指導を行う。</p> <p>（2 窪寺俊之） 地域における、エンドオブライフ期のケア対象者とその家族へのスピリチュアルケアのあり方について、研究指導を行う。</p> <p>（② 小笠原知枝） エンドオブライフ期における多様な健康課題を探究し、看護ケア方法や看護実践モデルの開発、看護理論の生成などのエンドオブライフ看護学の開発を行う。</p> <p>（4 長尾憲樹） 高齢者を対象に生活習慣病予防、介護予防に対する運動、栄養、精神力の維持・増進に関する研究課題を科学的知見から考究し、住民の健康の維持増進に寄与するための研究指導を行う。</p> <p>（5 長尾光城） 高齢者の体力について、元気な高齢者から病弱な高齢者までを対象に、生理学的変化と骨・関節の変化を観察することで、いかにして健康寿命を延伸させることができるかを考察し、生理学的、整形外科的な観点から研究指導を行う。</p> <p>（6 長弘千恵） 複雑で多様な健康課題を持つ在宅療養者の日常生活におけるケア開発や生活・健康課題に視点を置いた家族への支援方法など、療養者と家族の力を活かした支援方法について研究指導を行う。</p> <p>（7 富安俊子） 個人及び家族、集団、地域の全ての妊産褥婦及び新生児を対象とする母性看護において、それぞれの看護実践に寄与する独自の研究テーマを創出し、女性の健康支援、障害児を持つ母親、母子および家族を中心とした看護など、母性看護学を中心とした研究指導を行う。</p> <p>（8 柴山健三） 救急看護や集中治療を受ける患者の看護領域において、独自の研究テーマを創出し、それに基づく国内外の文献検討を行う。データを統計学的に収集・分析し、研究課題を科学的見地から深く探求することで、これらの患者の健康やQOL向上に資する急性期看護を中心とした研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学研究科看護学専攻 博士前期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	特別研究M	<p>(9 加藤知可子) 入院治療あるいは社会資源を用いて地域で生活するすべての精神障がい者とその家族を対象とする精神看護学において、心理教育や家族支援を中心とした研究指導を行う。精神看護学の実践を追及し、精神看護の場における課題や疑問の解決に向けた研究に取り組むとともに、看護実践の質向上および看護実践現場の改善を図ることにより、精神の病と共に生きる人々の生活の質向上に寄与するための研究指導を行う。</p> <p>(10 多田章夫) 地域住民の喫煙、乳幼児虐待、神経難病、認知症、誤飲性肺炎、要介護高齢者重症度予防等のテーマに関し記述統計、多変量解析などを用いた研究指導を行う。</p> <p>(11 森田恵子) 医学診断治療システムは全国共通であっても、発達支援・子育て支援に関する社会資源や支援システムは地域差が大きい。病気や障がいのある子どもとその家族の地域生活が、健康で安全であることを支援するケアシステムについて研究指導を行う。</p> <p>(③ 兒玉 拓) 代表的な呼吸器疾患である気管支喘息病態について理解を深めるとともに喘息の看護ケアの課題を多角的に俯瞰しながら喘息発作時等の看護ケアの看護技術の向上を目的とするプログラム構築を目指した研究指導を行う。</p> <p>(14 宮島多映子) 死を迎える対象者に質の高い看護と安楽な看護を提供するために、臨床研究の手法に則り、各々の持つ看護の課題をテーマとして、看護技術の生理学的検証および臨床応用ができる看護技術の開発と教育方法についての研究指導を行う。</p> <p>(④ 高見千恵) 在宅療養者および家族に関する生活・健康課題を多角的に捉え、それらを解決するために必要な施策、地域包括ケアシステムの構築方法、家族支援プログラムの開発等を探求する研究について論文指導を行う。</p> <p>(16 白神佐知子) がんや慢性的な健康障害をもちつつ生活をする対象者への看護及び、終末期にある患者および家族への倫理的配慮や意思決定プロセスの支援について質的に収集・分析し、看護の専門性と看護実践を追求する研究指導を行う。</p> <p>(17 大植由佳) 看護学の基盤となる基礎看護学において、アセスメント能力向上にむけてのシミュレーション教育のプログラム構築や職業アイデンティティの変化などの実証的研究を中心とした研究の指導を行う。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の場合、収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護学研究方法特別講義	<p>（概要）看護学研究に関する諸理論を概観し、グローバルな社会に対応する看護学研究の動向や課題を検討し、自己の研究の方向性を探求する。独創的な研究課題に応じて研究方法を選択し、研究計画書の作成、実施、論文作成という研究プロセスについて教授する。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（1 三徳和子／3回） 国内外の先行研究を多面的視点で捉えるための適切な文献クリティーク、研究プロセスについて教授する。</p> <p>（6 長弘千恵／7回） 記述理論、説明理論、予測理論などの質的研究に必要な諸理論をもとに、自己の看護研究課題を明らかにする方法について教授する。</p> <p>（② 柴山健三／5回） 演繹的手法として大規模調査の他、継時的調査、介入調査など、データの科学的取扱いによる卓越した看護研究を実践できる方法について教授する。</p>	オムニバス方式
	応用統計学特別講義	<p>基本的検定手法であるt検定、分散分析、順位和検定、多重比較・反復測定データ解析方法について学修する。多変量解析のための統計モデルの基本として、重回帰モデル、ロジスティック回帰モデル、因子分析・主成分分析、構造方程式モデリングの理論、質問紙調査におけるデータ収集と測定方法、尺度開発方法についても教授する。</p>	
	保健医療福祉政策特別講義	<p>（概要）保健医療福祉政策の歴史的背景及び財政医療供給体制の課題を踏まえ、諸外国と我が国の保健医療福祉政策の実情、保健医療福祉関係者と連携して課題解決に向けた取組みをする必要性を理解した上で、地域包括ケアシステムの構築方法、今後のケアサービスの展望について議論、考究し、提言する。 （オムニバス方式／15回）</p> <p>（1 三徳和子／6回） 医療供給体制、地域包括支援センター（子育て世代・高齢者）の現状と課題を多角的に捉え、保健医療福祉関係者の連携についての課題と今後のあり方について教授する。</p> <p>（15 高野敦子／1回） 地域包括支援センター（高齢者）の現状と課題を討議する。</p> <p>（16 河野真／3回） 諸外国と我が国の保健医療福祉政策の実情を整理し、エンドオブライフ期における保健医療福祉関係者の効率的な運用と政策の在り方について教授する。</p> <p>（17 伊藤秀樹／5回） 保健医療福祉政策の歴史を踏まえ、現在の保健医療福祉政策の仕組みと財政医療供給体制の課題を多面的に捉え、地域包括ケアシステムへの展望について教授する。</p>	オムニバス方式



授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	エンドオブライフケア看護学特別講義	<p>（概要）看護学周辺の学問領域で得られた知見と多くの研究文献を基盤に、修得したことを各自の研究課題に反映させることを目的とする。授業は、先ずエンドオブライフケア看護学の研究動向を理解し、わが国の課題を認識した後、臨床的現状を反映したエンドオブライフケア看護学の理論開発のプロセス、エンドオブライフケアの評価指標としての尺度開発のプロセス、病の軌跡4パターンのエンドオブライフケアの明確化とそれを反映したエンドオブライフケアのプロセス、ケア介入や教育介入のプログラム開発とその検証のプロセスなどを主な内容とする。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（3 小笠原知枝／12回） エンドオブライフケア看護学の研究動向、エンドオブライフケア看護学の理論開発とプロセス、評価指標としての尺度開発のプロセス、ケア介入や教育介入のプログラム開発とその検証について教授する。</p> <p>（12 児玉 拓／3回） エンドオブライフケアの病の軌跡4パターンにおける病態的特徴、エンドオブライフケアにおける臨床倫理を多角的な視点から捉え教授する。</p>	オムニバス方式
	エンドオブライフケア看護学特別講義演習	<p>（概要）エンドオブライフケア看護学領域の理論・モデルの構築を前提とした、エンドオブライフケアに関する理論開発、ケア評価の測定尺度開発、教育プログラム開発とその検証、ケア介入や教育介入研究を目的としたシステムティックレビューと概念分析について考究し、修得したことを各自の研究課題の遂行に反映させることを目的とする。 （オムニバス方式／全30回）</p> <p>（3 小笠原知枝／24回） エンドオブライフケア看護学における研究の動向に基づく現状と課題の分析、システムティックレビューと概念分析に関する基礎的理解、エンドオブライフケアに関する理論開発を目的としたシステムティックレビューと概念分析、教育プログラム開発とその検証を目的としたシステムティックレビューと概念分析、ケア介入や教育介入研究を目的としたシステムティックレビューと概念分析について教授する。</p> <p>（12 児玉 拓／6回） 多角的な視点からエンドオブライフケアの病の軌跡4パターンにおける病態的特徴、エンドオブライフケアのプロセスについて議論、考究、提言する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 生涯発達看護学	生涯発達看護学特別講義	<p>（概要）生涯発達を踏まえオムニバス方式で成人・老年看護学、小児・母性看護学および医学領域を含めた生涯発達看護学として講義を行う。成人・老年看護学では救急医療から集中治療、在宅療養者のQOL評価における看護援助の実態と研究動向について理解する。小児看護学では障害児童、幼児への保育および家族看護の海外と日本の現状、医学領域では、中高年者を対象とした生活習慣病予防に関する研究動向、在宅療養者および高齢者への運動負荷による生理学的、生化学的効果、運動選手への医学的支援の現状を理解し、独創的な研究課題を焦点化する。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>① 長尾光城／6回 中高年者を対象とした生活習慣病予防に関する研究動向を把握し、在宅療養者、高齢者や運動選手などへの運動負荷による生理学的、生化学的効果に関する国際的な研究の現状と看護専門職者への課題に関しての国際的な現状について教授する。</p> <p>② 柴山健三／6回 脳卒中患者、心血管疾患患者の救急医療、集中治療、回復期促進、生活習慣改善、終末期への看護の援助の実態と研究動向の実態について教授する。</p> <p>④ 森田恵子／3回 国際的な最先端の障害児童及び幼児への保育及び家族看護の現状とその課題について教授する。</p>	オムニバス方式
	生涯発達看護学特別講義演習	<p>（概要）本演習では、オムニバス方式で成人・老年看護学、小児・母性看護学および医学領域を含めた生涯発達看護学として、生涯発達看護学特別講義で検討した研究課題を踏まえ、これらの課題解決の調査方法や介入的援助法の議論や実践を行う。そして、研究課題に対する介入的援助法を立案するためのプログラムを作成し、手順やプログラム立案能力を高めてゆく。成人・老年看護学、小児・母性看護学および医学領域で立案した各プログラムの問題点などを議論し、介入研究を進めてゆくための計画を発表し評価する。 （オムニバス方式／全30回）</p> <p>① 長尾光城／12回 中高年者を対象とした生活習慣病予防教室のための教育計画と評価、健康長寿のための運動療法・整形外科的治療を中心とする介入プログラム開発、終末期までをより豊かな時間として迎えるためのプログラム開発について教授する。</p> <p>② 柴山健三／12回 救急医療及び集中治療、心血管疾患患者の回復期から在宅での看護での看護専門職者の直面する問題と問題解決に向けた援助法の立案について教授する。</p> <p>④ 森田恵子／6回 自閉症児への睡眠・栄養・運動・体温調節などの保育に関するアウトカム評価及びプログラム開発について教授する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科看護学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	広 域 看 護 学	在宅看護学特別講義	<p>（概要）高度化する在宅医療を支える看護職の現状と包括的な課題を多角的に探究し、日常生活ケアについて科学的方法を用いて検討する。在宅療養者及び家族が自律した生活を送るための社会資源を活用した退院支援や在宅看護の質の向上へのプログラム開発などについて教授する。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（6 長弘千恵／9回） 国内外の文献クリティークを行い、疫学的視点をもとに在宅看護の実践を支援するため、自らの課題に合った研究デザインを探究する。</p> <p>（③ 加藤知可子／6回） 地域における精神障がい者に対する日常生活ケアの開発、心理教育的アプローチによるプログラム開発、多機関・多職種との連携による退院支援などの方策を考究する。</p>	オムニバス方式
		在宅看護学特別講義演習	<p>（概要）在宅看護学領域における国内外の文献クリティークを行い、生活健康課題を多角的に分析し、明確化させ、保健医療福祉制度、多職種・多機関との連携、退院支援、シームレスケア、ケアシステムのプログラム開発、家族支援について、討議、考究し、提言する。 （オムニバス方式／全30回）</p> <p>（6 長弘千恵／20回） 在宅看護学領域における研究計画書を立案するために必要な研究方法論を討議により深化させ、自らの研究課題に適切な研究手法を探究する。</p> <p>（③ 加藤知可子／10回） 地域における精神障がい者に対する日常生活ケアの開発、心理教育的アプローチによるプログラム開発、認知症高齢者とその家族を支える在宅ケア、多職種・多機関との連携による退院支援などを科学的に探究する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学研究科看護学専攻 博士後期課程)				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	広 域 看 護 学	地域看護学特別講義	<p>(概要) 様々な分野の複合的かつ広域的な視点から個人及び家族、特定集団、地域を対象とした深い洞察と分析方法を理解し、地域看護の課題や研究に取り組むための知識・理論・モデルを活用し、QOL及びQODDの向上に向けた地域包括ケアシステムの構築や、ソーシャルキャピタルの醸成について探求する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 三徳和子/9回) 地域看護活動の対象者別(母子、成人、難病、感染症、災害弱者)の健康水準について先行研究をクリティークし、因果関係・健康阻害要因に関するデータ分析、健康課題をレビューし地域の人々が保健行動を改善するための支援策を探究する。</p> <p>(2 窪寺俊之/2回) 多様化する死生観を踏まえて多面的に生命を捉え、地域におけるエンドオブライフ期のケア対象者とその家族へのスピリチュアルケアのあり方について考究する。</p> <p>(4 長尾憲樹/2回) 災害時における人々の対処行動を理解し、地域での防災体力に関する方策を考究する。</p> <p>(18 眞崎直子/2回) 高齢者のソーシャルサポートとソーシャルキャピタルの理論とその課題について教授する。</p>	オムニバス方式
		地域看護学特別講義演習	<p>(概要) 様々な分野の複合的かつ広域的な視点から、諸外国の制度、サービス提供システム、地域における高度看護専門職者の役割を分析し、健康に影響する要因と因果関係や、健康阻害要因を検証し、健康実態把握と健康問題解決のための方法論や保健事業活動、地域資源を活用した高度看護専門職者の役割と可能性について、議論、考究し、提案する。 (オムニバス方式/30回)</p> <p>(1 三徳和子/18回) 地域看護学の役割、住民と専門職のチームワークによる健康支援、ソーシャルキャピタルの形成と地域づくり・まちづくりなどの地域包括ケアシステムについて自身の研究課題の焦点化、研究方法について討議により探求する。</p> <p>(2 窪寺俊之/6回) 多様化する死生観を踏まえて多面的に生命を捉え、地域におけるエンドオブライフ期のケア対象者とその家族へのスピリチュアルケアのあり方について国内外の先行研究を用いて討議し、考究する。</p> <p>(4 長尾憲樹/6回) 災害時における人々の対処行動を理解し、地域での防災体力に関する方策について、国内外の先行研究を用いて討議し、考究する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	特別研究D	<p>(概要) グローバルな視点から自立して研究を進めていく能力、高度看護専門職者として、研究及び実践の展開に必要な独創性や創造性を培い、累積した先行研究を活用し、研究計画を立案、研究活動を展開し、看護学の発展に寄与する論文を作成する。</p> <p>(1 三徳和子) 地域に在住する人々のゆりかごから墓場までのライフサイクル別健康課題およびエンドオブライフ期における対象者（要介護・支援高齢者、認知機能障害高齢者、難病患者等）のQOLおよびQODDに関する研究、生活習慣病、職場のストレスなどの課題から独創的な研究活動を行うための研究指導を行う。</p> <p>(2 窪寺俊之) 地域におけるエンドオブライフ期のケア対象者とその家族へのスピリチュアルケアのあり方について、研究指導を行う。</p> <p>(3 小笠原知枝) エンドオブライフ期における多様な健康課題を創造的に探究し、看護ケア方法や看護実践モデルの開発、看護理論の生成などのエンドオブライフ看護学の開発のための指導を行う。</p> <p>(4 長尾憲樹) 高齢化率、少子化等の人口動態、健康状態調査を基本とし、地震、津波、台風、豪雨等による自然災害発生時の生命の保持・健康の維持増進のための研究課題を科学的見地から深く探求することで、災害時のQOL保持に寄与する研究指導を行う。</p> <p>(① 長尾光城) 我が国の長寿社会のあり方を、健康寿命の観点から学術的に考察し、生老病死に至る一連の人生の中で、健康を享受して、生きることができるとを研究する。人の人生にとって望ましいエンドオブライフのあり方を追求し、長寿健康と看護についての研究指導を行う。</p> <p>(6 長弘千恵) 在宅看護の現状と包括的課題を多面的に探り、あるべき姿に導く看護サービスについて探求するために必要な科学的方法を検討し、独創的な研究論文を作成するための研究指導を行う。</p> <p>(7 富安俊子) 個人及び家族、集団、地域の全ての妊産褥婦及び新生児を対象とする母性看護において、それぞれの看護実践に寄与する独自の研究テーマを創出し、それに基づく国内外の文献検討を行う。データを統計学的に収集・分析し、研究課題を科学的見地から探求する。そして、介入研究を行えるように母性の看護学を中心とした指導を行う。</p> <p>(② 柴山健三) 救急看護や集中治療を受ける患者の看護領域において、先進的、実践的および独創的な研究テーマを創出し、それに基づく国内外の文献を深く検討を行う。データを継続的および多数例を統計学的に収集・分析し、研究課題を科学的見地から深く探求することで、急性期看護領域において革新的なケアシステムを開発できる研究指導を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	特別研究D	<p>(③ 加藤知可子) 精神障がい者および家族のQOLの向上に資するために、多角的視点にたつて、統合失調症や認知症を抱える対象者および家族が安心して生活できる支援システムの開発等に関する研究指導を行う。精神看護の場における課題解決に向けた看護実践方法の開発研究に取り組むことで、精神看護学に関連する理論を発展させ、精神看護学と看護実践の発展に寄与できるオリジナリティのある研究を指導する。</p> <p>(10 多田章夫) 地域住民の喫煙、乳幼児虐待、神経難病、認知症、誤飲性肺炎、要介護高齢者重症度予防等のテーマに関し多角的な視点から分析し、広域看護学領域における質向上に資する研究指導を行う。</p> <p>(④ 森田恵子) 小児を取り巻く諸問題（発達支援・子育て支援に関する社会資源や支援システム、自閉症児への保育のためのプログラム開発等）の解決に向けて、研究を支える理論を理解し、研究的方法や課題について探求する。</p> <p>(12 兒玉 拓) 気管支喘息の病態コントロールを評価しながら患者が求める喘息看護ケアを再定義し、併せて喘息ケアでの看護技術の課題を探求する。さらに臨床研究の手法に則り看護ケアの質の向上を目的とした研究指導を行う。</p> <p>(14 宮島多映子) 死を迎える対象者に質の高い看護と安楽な看護を提供するために、臨床研究の手法に則り、各々の持つ看護の課題をテーマとして、多角的な視点から、看護技術の生理学的検証および臨床応用ができる看護技術の開発と教育方法についての研究指導を行う。</p>	(研究指導)

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

## 学校法人睦学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
兵庫大学				兵庫大学				
3年次				3年次				
現代ビジネス学部				現代ビジネス学部				
現代ビジネス学科	120	2	484	現代ビジネス学科	<u>100</u>	2	<u>404</u>	定員変更(△20)
3年次				3年次				
健康科学部				健康科学部				
栄養マネジメント学科	80	5	330	栄養マネジメント学科	80	5	330	
健康システム学科	40	—	160	健康システム学科	40	—	160	
看護学部				看護学部				
看護学科	90	—	360	看護学科	90	—	360	
生涯福祉学部				生涯福祉学部				
社会福祉学科	30	—	120	社会福祉学科	40	—	160	
こども福祉学科	50	5	210	こども福祉学科	50	5	210	
計	410	12	1664	計	<u>400</u>	12	<u>1624</u>	
兵庫大学大学院				兵庫大学大学院				
経済情報研究科	20	—	40	経済情報研究科	<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和2年4月学生募集停止
経済情報専攻(M)				現代ビジネス研究科	5	—	10	研究科の設置(届出)
				現代ビジネス専攻(M)				
				看護学研究科				
				看護学専攻(M)	<u>6</u>	—	12	研究科の設置(認可申請)
				看護学専攻(D)	4	—	12	
計	20		40	計	<u>15</u>		<u>34</u>	
兵庫大学短期大学部				兵庫大学短期大学部				
保育科第一部	100	—	200	保育科第一部	100	—	200	
保育科第三部	80	—	240	保育科第三部	80	—	240	
計	180	—	440	計	180	—	440	